

日時： 2011年8月22日（月） 15：00～17：30

場所： 建築会館会議室

出席者： 緑川主査、井戸田、金子、桑村、向野、吹田、田川、田中、五十嵐（竹内委員代理）、
玉井、中込、西山、藤澤、藤田、伏見、山田、寺田

欠席者： 岡本、小河、越智、笠井、河野昭彦、河野守、田上、多田、中島、成原

資料：

02-01	2011年度 第2回鋼構造運営委員会議事予定	（緑川）
02-02	2011年度 第1回鋼構造運営委員会議事録（案）	（寺田）
02-03	構造本委員会（7月22日）資料抜粋	（緑川）
02-04	2011年度大会PD資料および「鋼構造の座屈に関する諸問題2012(仮称)企画案」	（竹内）
02-05	接合小委員会・報告メモ	（田中）
02-06	2011年度 第28回 鋼構造制振小委員会議事録（案）	（笠井）
02-08	鋼構造環境小委員会 2011年度第2回議事録	（藤田）
02-10	塑性設計小委員会 報告	（玉井）
02-12	（鋼構造運営委員会関連書籍に関する）質疑回答一覧 （資料07、09、11 は欠番）	（多田）

議事

1. 前回議事録の確認（資料02-02、寺田）

- ・事前配布された議事録（案）に対する修正意見はなく、承認された。

2. 構造本委員会報告（資料02-03緑川）

- ・7月22日に開催された今年度第1回構造本委員会の議事が資料を用いて報告された。主な報告および依頼事項は下記の通り。

<報告事項>

- ・2012年度建築学会大会は、名古屋大学で9月12日～14日に開催される。
- ・建築学会でまとめた『2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報』の英語版の刊行が企画されている。鋼構造運営委員会にも執筆が依頼される見込み。
- ・2011年東北地方太平洋沖地震に関する国際シンポジウムが地震工学会主催、建築学会・土木学会・地盤工学会・機械学会・地震学会の共催（案）で2012年3月3日（土）、4日（日）に開催される予定である。会場は建築会館。

<依頼事項>

- ・2012年度大会のOS(オーガナイズドセッション)、発表部門細分類・細々分類の検討。
- ・2012年度大会PDの提案。
→ とともに10月31日構造本委員会提出締め切りなので、次回の運営委員会までに提案をお願いします。

3. 各小委員会報告

資料等に基づき各小委員会の活動が報告・審議された。

1) 座屈小委員会（資料02-04、五十嵐）

- ・今大会のPD(25日開催)を踏まえ、2012年度に刊行予定の「鋼構造物の座屈に関する諸問題2012(仮称)」の内容を検討していく。
- ・紛らわしい用語がいくつかあるので、今後小委員会で検討する。例えば、「トラス架構」と「ブレース付き骨組」、薄板鋼板、薄板の定義（本指針では板厚の絶対値ではなく、幅厚比の大きな板要素を想定している）など。

2) 接合小委員会（資料02-05、田中）

- ・現在、鋼構造運営委員会の査読意見に対し小委員会で対応検討中。

- ・出版社の都合で、改定しない部分の原稿も改めて作成する必要が生じ、時間がかかってしまっていた。
- ・改定版の出版および改定講習会は、年度内に実施する予定。
- ・鋼構造運営委員会の査読意見と回答については、次回運営委員会で報告のこと。

3) 制振小委員会（資料02-06、金子）

- ・今年度中に鋼構造制振設計指針の原稿をまとめ、来年度査読を経て新規刊行の予定。
- ・WGごとに内容を詰めている。

4) 環境小委員会（資料02-08、藤田）

- ・リユースの事例を調査している。
- ・リユースの対象は、新築と既存の両者としている。
- ・環境小委員会では部材リユースを主に着目しているが、リユースにこだわるのではなくリサイクルなども含め、総合的に環境について取り組むことも考えられる。
- ・住宅メーカーは既に部材のリユースを顧客に提案しているが、解体コストや建方を考えると、リユースがコストアップになる可能性もある。

5) 素材小委員会（山田）

- ・前回の運営委員会で報告した通り、各機関（民間企業、大学等）に鋼材の機械的性質と化学成分に関する調査を依頼し、多くのデータが集まっている。91機関に依頼し、25機関からデータ提供を受けた。ミルシートは約5000枚が集まった。今後、分析を進めて行く。
- ・ただし、繰り返しのデータなど補完する必要があるれば今後、追加の調査依頼も考えたい。

5. 重点審議「塑性設計小委員会について」（資料02-10、玉井）

- ・小委員会報告を兼ね、塑性設計指針の改定方針案が資料に基づき報告された。主な意見は下記の通り。
- ・塑性設計で用いる降伏応力度は、上降伏点ではなく下降伏点が妥当である。材料としては上降伏点^点で管理されているが、素材小委員会が集計している材料データから上降伏点と下降伏点の比率などを統計的に求めることで対応可能と考えられる。
- ・現在の塑性設計指針は教科書的であり、塑性解析を手計算で行うことを前提にしている。これに対し、改定塑性設計指針ではどこまで内容を拡張させるか、例えばコンピュータを使った塑性領域の応答解析までも含めるかよく整理、検討すること。
- ・内容を大きく変えて設計を意識した改定版として刊行するよりも、現塑性設計指針はそのまま教科書的位置づけとして残し、新しい塑性設計指針として新規に刊行するという考えもある。
- ・設計用指針とする場合、指針の内容が一人歩きする可能性もある。また、「設計法」にするために研究意見を集約することも必要である。かなりの作業量となることが予想される。
- ・本日の意見も踏まえ、小委員会で検討する。現段階では「改定」を前提とするが、改定内容・記述内容が具体的になってきた段階で運営委員会で再度議論をしたい（緑川主査）。

6. 2012年度大会PD案について

- ・構造本委員会報告で述べた通り、本委員会への提出締め切りが10月31日である。次回運営委員会でPD案を決めたいので、委員各位の提案をお願いします。

7. 学会図書への質疑回答の報告（資料02-12、多田）

- ・未回答の質疑については、担当の小委員会で対応のこと。

8. 3.11地震被害調査について

- ・構造本委員会報告で述べた通り、地震被害調査に関して下記の動きがある。鋼構造運営委員会としては、まずは主査、幹事で対応し、必要に応じWGを設置することも考える。

- ①被害調査速報英語概要版
- ②東日本大震災国際シンポジウム（2012年3月3日、4日）

- ③調査建物数の集計
- ④建築学会最終報告書

9. その他情報

- ・西山委員からISO/TC167（鋼構造）関連の動きが紹介された。
既存のISO規格をEU規格に丸ごと置き換えるという提案であり、JSSCがメインに対応している。今回は施工編の改訂提案なので、鉄骨工事運営委員会にJASS6の英文の提供などをお願いしているが、今後は、設計編の改訂提案なども想定される。その際には、本運営委員会にも関係してくる可能性もある。
我が国がISOを受け入れることで現在の鋼構造関連の基準が緩和され我が国の鋼構造関連基準の優位性が低下する可能性もある。

■次回（2011年度第3回）の鋼構造運営委員会予定

- ・日時 2011年10月18日（火）14：00～17：00
- ・議題 構造本委員会報告、各小委員会報告、2012年度大会PD案 他

以上（記録：寺田）

3.